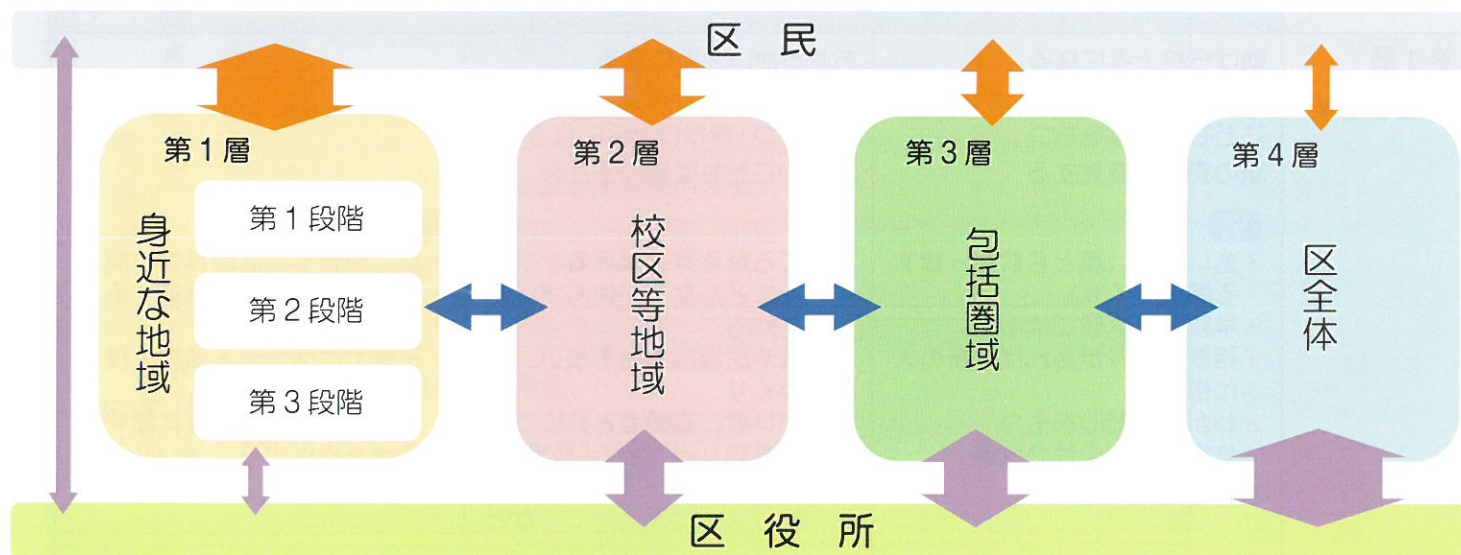


東淀川区地域支援システム図

身近な地域から小学校区等の地域、地域包括支援センター圏域、区の4層のネットワークにより、援護を必要としている住民を支援する区独自の仕組みです。地域住民をはじめ、地域の関係機関が各取り組みを連携させることで、課題発見や相談支援、関係機関への連絡調整、支援のあり方の検討など、よりよい地域づくりのための仕組みを構築します。



※第1段階：向う3軒両隣
 第2段階：身近なエリア(10軒程度)
 第3段階：身近なコミュニティ(100軒程度) を想定しています。

今後の取り組み

地域別の地域保健福祉計画の作成に向けて

- ・各地域において実施事例の学習など勉強会を開催します。
- ・計画の作成意義を明確化、共有し、作成方法、作成体制を検討します。
- ・計画の作成意義や作成スケジュールなどを住民に周知します。

地域の現状・課題や住民ニーズの情報収集

- ・人口、世帯数、高齢化率などの地域の基礎的データを整理します。
- ・地域の特性に応じて、必要な情報収集を行います。
- ・地域の実情を再確認、共有するために、必要に応じて「まち歩き」をします。
- ・「住民アンケート」「ワークショップ」などを開催し、住民ニーズを把握します。

地域別の地域保健福祉計画の作成

- ・計画の構成を検討します。
- ・計画案を作成し、地域での意見交換会等で検討します。
- ・地域別の地域保健福祉計画を完成します。

地域別の地域保健福祉計画の公表・活用

- ・広報紙や回覧、ホームページ等を通じて、計画の内容を住民に周知します。
- ・区役所、関係機関等と計画を共有し、連携・協力方向について協議します。
- ・地域活動協議会や構成団体における事業計画の作成にあたっての指針とします。

